

『かけがえのない、いのち』を読んだ女子高生の感想を 分析したスクールカウンセラーの本音

森居 あかね(公認心理師・臨床心理士)

今回、『かけがえのない、いのち』を読んだ女子高生の感想を分析しました。元々、『かけがえのない、いのち』は幼児と保護者のための性教育資料として、「心の教育・性教育・人間教育を考える会」が学会のラウンドテーブルに参加して、討議を重ねる中から誕生したものです。



高校生に冊子の感想を書いてもらうきっかけは、一昨年度に、私が担当するある学校で入学早々の1年生の事故が起きたことです。幸い大事には至りませんでした。私は心理職として何か生徒たちにできることはないだろうか?とかなり真剣に思い悩むうちに、「そうだ!冊子を配って《命の大切さ》と向き合ってもらおう」と思いつきました。

1. 実践に至るエピソード

一番最初に、A女子高の相談係の先生に冊子を渡して、当初は新1年生にだけ配布することを打診しました。すると、その担当の先生は冊子に目を通して、「これはぜひ、全校生徒に読ませたい」と言ってくれて、さらに感想を集める具体的な方法を提案してくれました。Google フォームを使って①読んでの感想 ②心に残った章 ③その理由 をデータで集めるやり方です。

今まで生徒には講演会の感想を毎年書いてもらってききましたが、プリントに手書きでしたので、それは画期的なことでした。データで集めたことがその後分析することを可能にしました。

その担当の先生は1年生の担任でもあったので、特に1年生は朝学習の時間を使って1章ずつ読む取り組みが可能だと言ってくれました。その後、管理職の許可を取ってくれて、学年の先生方に提案して実施してくれました。

今回のような取り組みには先生方の協力が不可欠です。特に窓口となる相談係の先生の力を得られたことは大きく、そうでなければこんなにスムーズにいかなかっただろうと思われま。高等学校の場合、月に2回くらいしかカウンセリングに行かないので、少ない機会であっても日ごろから仕事を通して信頼関係を築くことを心がけてきたことが実践につながりました。

2. 生徒の書いた感想

A女子高1年生の書いた感想の一部を紹介します。

- ◎ 自分が赤ちゃんだった頃から、両親がたくさんのサポートをしてくれたのだと思

い、読んでいてとても嬉しく感じました。また、自分が親の立場に立った時や子供を世話する機会がある際に覚えていかなきゃいけないこと、大切にしなければならないことを学びました。自分の体のこと、心のことも自分自身でよく知り管理していくことが大切だと思います。心身以外にも、SNSでのトラブルについてや、個性を尊重することの大切さも学びました。これからも自分のことから身の回りのことまで意識して生活していきたいと思います。

- ◎ 小さい頃のことを良く振り返ってみる機会ができた。いろいろなことがあって今の自分が形成されていると考えると感慨深いと思えた。たくさんの人に支えられていたこともあって、周りの人に感謝する生活を送れるように何気ない日々を大切にできる自分でありたいと思った。
- ◎ 改めて命の大切さを学んだ。赤ちゃんを産むことについて、まだまだ先のことだし少しずつ勉強するだろう程度で思っていたけれど、その時に備えてもっとしっかり考えていかないといけないと思った。小冊子に書いてあることは、思い返すと自分も父母にやってもらっていたのだと気づき、今ある命に感謝し大切にしていきたいと思った。
- ◎ 今まで性と聞くと恥ずかしいことだと感じていましたが、最近性教育が重要になってきて全然恥ずかしいことじゃないと思いました。この本を読んで、性教育というのは人の人生を左右する大切なことなんだなと思いました。
- ◎ “性”と聞くと気恥ずかしくなってしまう、あまりコミュニケーションがとれず、インターネットで見た正しいのか正しくないのかの判断のつかない情報をすぐ鵜呑みにしてしまうことがあるので、正しい判断をするためにもコミュニケーションをしっかり取って、その意味を吟味しようと思います。
- ◎ この本を読んで、自分のお母さんもこのように、日常会話の中で大切なことを教えてくれていたのだなとその当時はわからなかったが、今になって気づく事が多かった。最近では、LGBTや同性婚などがあるので、多様性を尊重していこうと思った。
- ◎ 日本は海外と比べると性についてあまりオープンに話すことがなく、話すことが恥ずかしいと思っている人が多いと思います。また、授業で学ぶ機会も少ないです。そのため、このような冊子で性について理解が深められる良いきっかけになったなと思いました。
- ◎ 幼少期からきちんとした性の知識を入れておくことはとても重要だと思いました。私の幼稚園では、男子同士のズボン下ろし遊びなどが流行っていた時期があって、嫌がっている子もいたけれど大人がしっかりと注意をすることがなかったので、若干でもトラウマになっている子がいるのかもしれないなと考えました。そういった場面で、性の知識のある保護者や周りの大人が話をしあげべきだったのかなと思いました。
- ◎ 小さい頃からの教育がすごく大切なことがわかった。子どもとコミュニケーションを取り合っていくことも大切なんだなと思った。小さい頃から言われ続けていた「いかのおすし」は子どもがそういう被害に遭わないようにしっかりと教育されてきたんだなとわかった。

- ◎ 性に関することなどの教育は、少しずつでも小さい頃からしっかりと教えていくことが大切だと思った。「性」に関することは小さい子でも誰も関わることから、親や周囲の大人が過剰に心配をし過ぎることはなく、自然なことと思うのも大切だけれど、適切にしっかり子供を導いていって間違わないように気をかけることも必要なことだと思った。
- ◎ この資料を読んだとき、一番に「性についてのことは奥が深いんだな」と思いました。今生きている自分は、すべての始まりは自分の親から生まれてきていることを改めて実感しました。もし自分に子供ができたときには、自分の言葉で性のことについて話したいと思いました。
- ◎ 自分のことだけを優先するのではなく、自分たち以降のこれからを作っていく年下の子たちへの気遣いをしたり、多様性の認められた新しい常識はもちろん、性のことなどについても良いこと悪いことをしっかり伝えていくのはとても大切だと感じた。また、視野を広くし色々な未来に向けての活動に参加したりすることは今後とても大切なのだと思ったし、私も率先的に行っていきたい。
- ◎ 子供が怖い思いをしないために、病気や犯罪についてのことをしっかり教えることが大切なんだと思った。子供を守るには親が豊富な知識を持つことが大切なんだと思った。
- ◎ 小学校、中学校の保健の授業や道徳の授業などを通して、命の大切さとは何か学び、勝手に理解したつもりになっていたけど、冊子を読んでまだ知らないこともあり、新しい知識を取り入れることができた。
- ◎ 義務教育の中ではここまで詳しく性について教えられてこなかったのが、大人になる前の今から知れて良かった。また、今まで恥じらいを感じながら接してきた性事情だが、命をつなぎ守るためということを健全に学ぶことができた。
- ◎ 性についてあまりいいイメージがありませんでしたが、この冊子を読んでマイナスからプラスに変えてくれるような内容だと感じました。
- ◎ 命の誕生や身体のことなど、話しづらい内容ではあるが、この冊子は優しい口調やイラストが描かれていて、読みやすく理解しやすかった。

A 女子高1年生の感想は、他の学年や他校の感想と比べても、冊子の内容を真摯に受け止めて率直な思いを書いてくれたものが多かったように思います。やはり、朝学習の時間を使って1章ずつ読み込むことができたので、サラッと読んだものとは違う感想が書けたのだと思います。

この感想を、ラウンドテーブルコーディネーターとしてご指導頂いている山田富秋先生(社会理論・動態研究所)に見てもらったところ、「これは分析する価値がある」とアドバイスをいただいて、分析することになりました。しかしながら、私にとって感想の分析はまったく未知の世界で何をどうすればいいのか見当もつきませんでした。

今は本当に便利なインターネット(以下ネット)の時代です。調べてみると、テキストマイニングというソフトがいろいろあって企業がユーザーの口コミを分析して商品開発や改良に使っていること、私が使うことになった KHcoder の無料版があること、その使い

方のテキストが販売されていることなどが分かりました。

さっそく手に入れて使い方をマスターして、100人分の感想を分析しました。

3. 分析からわかったこと

分析ソフトの機能を使って、「多く使われたことば」を調べたり、その「ことば同士のつながり」をクラスター分析や共起ネットワーク分析で視覚的に分かるようにして調べました。さらに、感想の中に出てきた「同じような意味の文章」をコーディングの手法を用いてまとめました。

分析内容については、「学会ニュース 40 号」のラウンドテーブル報告で山田富秋先生がくわしく書いてくださっていますので、ご参照ください。

分析から分かったことは、

- ① ネットの情報に日常的に接したり、SNS(ネット交流サービス)のトラブルや性被害のニュースを聞くことが多くなった現在、性は恥ずかしい・してはいけない話と感じていた生徒も、冊子を読んで包括的性教育の指針を知ることは大切と思えたこと
- ② 親と距離を取るようになる時期でも、小さい子どもへの親の関わり方を知って、自分を育ててくれた親の大変さや思いを知るに至って、自分が大切な存在であったことに気付き、感謝したり、自分(の体)を大切にしようと思えた生徒が少なからずいたこと
- ③ 次世代の子どもに対しては、子どもを性被害から守るために、早い段階からの性教育が大事で、そのためには親(自分)がいろいろな知識や情報を持つ必要があると理解できたこと

良い価値観に触れることや、情緒と結びつく自己存在への気付きは「自己肯定感」の中の「自尊感情」や「自己受容感」を、また次世代への責任意識は同じく「自己効力感」や「自己信頼感」、「自己有用感」を強くしていきます。

4. その後の変化

その後迎えた生徒会役員選挙ではある変化が起きました。先生方に言わせるとA女子高の生徒は自信のない子が多いので毎年選挙にならないと聞いていましたが、この年は立候補が相次いで14名の立候補がありました。さらに、2学期に入るとカウンセリングの申し込みがゼロの状態が2か月続き、その後も1~2名で推移しました。

元々、女子高はカウンセリングの申し込みが多い傾向にあるので、その変化は大きいといえます。読後感想から、冊子の内容を真摯に受け止めた生徒はいろいろな気付きを得て、それが自己肯定感を上げる効果をもたらし、今までなら気後れしてやらずにいたことにもチャレンジしてみる気持ちになったり、自分で自分を支えられるようになって人に相談しなくても大丈夫になったと考えられます。

5. そして現在

冊子を配布してから約1年半経った現在、カウンセリングの数だけからいうと、以前の状況に戻っていて、私はとても忙しいカウンセリングスケジュールをこなしています。

元々心理的に脆弱な要素が多いと思われえる A 女子高の生徒は、良い刺激によって自己肯定感が上がっても、継続とはいかないようです。

相談内容は様々ですが特に最近多い、学校に来るのがつらい・教室に居づらい、友だちとのトラブル etc. 一見、心理的と見られるような問題の裏にスマートフォン(以下スマホ)からの影響が考えられます。

今の高校生にスマホは欠かせないものになっています。長時間の使用もめずらしくありません。それは本人にとってのお楽しみやひまつぶしのためでもあります。長時間となると自律神経への影響が出てきます。それが心理面へ、日々の気持ちのアップダウンにつながってきます。

また、SNS で他人のリア充な(現実の生活が充実している)様子を見聞きするだけでも自己肯定感は下がりやすくなります。他の人と比べて、必要以上に自分にダメ出ししがちです。SNS が人と人をつなぐ便利で楽しいツールである反面、嫉妬や羨望、批判や誹謗中傷をかき立てるツールにもなるのです。SNS が原因で子どもの自殺が相次いだオーストラリアで、法律によって 16 歳未満の子どもの SNS 利用を禁止したことも今日の話題です。

6. ネット社会をよりよく生きるために

子どもたちの日常に急速に入り込んできているネットの世界ですが、問題が起きて初めて周囲の大人たちの知るところとなります。性的なコンテンツを見た小学生が、それをまねして同級生に性加害する。高校生が作った2次元アイドル推しのオープンチャットで、見知らぬメンバーから性被害を受ける。専用アプリに売られた女子高生の写真から個人情報特定されて流出する etc.

簡単・便利・高性能になったスマホを日常使っていると、ワクワクすることの延長で低くなった犯罪へのハードルも超えやすくなっています。

そういった問題が起きることを子どもたちとも情報共有して考えさせる必要があります。その時に、「〇〇してはいけません」と禁止するだけではなく、人権ベースの考え方を教えることが重要だと思います。

それは、「からだの権利」や「境界(バウンダリー)」の考え方です。「自分の身体のこと自分で決める権利がある」「自分の境界は自分で自由に決めてよい」等、それをお互いに尊重していくことが大切です。そして、人によって違う境界を尊重するために相手に聞いて同意を得ること。境界が守られていないときは「NO」と言っていこと。

こういった考え方を日常の人との関わりの中で選択・行動できる実践力を身につけていくことが必要だと感じます。子どもだけではなく大人にとっても、さらに加速するネット社会をよりよく生きていくためのひとつの判断基準になるのではないのでしょうか。

子どもたちにとっては、自分は権利を持つ価値ある存在だと思えることができれば、自尊感情や自己受容感を含めた自己肯定感を高めやすくなりますし、自分を取りまく人たちとのコミュニケーションの取り方を考えたり、「暴力」とは何かを学ぶ機会にもつながっていきます。

この「からだの権利」や「境界(バウンダリー)」は、包括的性教育の基本的な考え方でも

あります。毎年行っている講演は学年ごとに様々なテーマがありますが、テーマのひとつに加えて、子どもたちと共に考えてみたいと思います。